

2025年市民活動重大ニュース【分野:企業の社会貢献】

	月日	項目	解説	執筆者
1	2025年1月21日	経団連の調査で企業の社会貢献活動における本業連動型と人材育成志向の強化が浮かび上がる	2024年9月30日～11月1日実施。調査対象企業393社のうち153社が回答。社会貢献活動を行う理由として最も多かったのは「社会の一員としての責任」(94%)であり、これに次いで「持続可能な社会の実現」(92%)が高い割合を占めた。企業は、自社の本業との関連が深い社会課題分野において、より重点的に活動する傾向を示している。 また、「社員が社会的課題に触れて成長する機会になること」や「社員のモチベーション向上や帰属意識の強化」についても7割を超える企業が期待を寄せており、人材育成や組織基盤の強化とも結び付けて認識されている実態が浮かび上がっている。	長澤恵美子
2	2025年1月21日	経団連の調査で能登半島地震に対する企業の多様な支援の展開が明らかに	①の調査の一環として実施。回答企業の97%が社会貢献活動の観点からの支援を実施。支援内容は、金銭寄付が94%、物資・サービスの提供が41%、ボランティア派遣が22%と多様な支援形態を組み合わせて展開。 また、能登半島地震特有の課題として「輸送手段の確保」に加え、「支援実施までに現地の支援ニーズが変化した」ことを挙げる企業もみられた。	長澤恵美子
3	2025年3月18日	ナイキ×読売巨人軍、子どものスポーツ支援「KARADAKARA」始動	ナイキと読売巨人軍が協同し、スポーツをする子どもたち、特に女の子を支援する助成プログラム「KARADAKARA(カラダカラ)」を2025年より開始。日本NPOセンターの協力のもと、対象年齢に応じた以下の4つのプロジェクトを実施する。 A:子どもと保護者が楽しく体を動かす機会の提供、B:仲間と楽しみながら体を動かす機会の提供、C:インクルーシブで配慮のあるスポーツ体験の提供、D:スポーツハラスメント防止のための指導者向けプロジェクト。また、8月23日(土)の対DeNA戦(東京ドーム)をNIKE冠試合「KARADAKARA DAY 2025」として開催し、初年度の助成10団体の活動を紹介。	長澤恵美子